

# ぐりふぁん letter



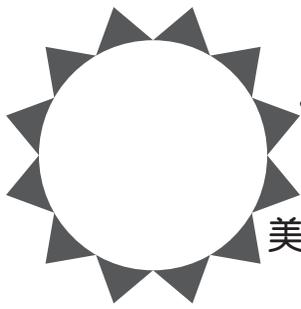
Vol.  
25  
2012.12

## INDEX

- ◆田歌舎におひさま発電所ができました!  
美山おひさまプロジェクト～2012田歌舎 収支報告 . . . 2
- ◆「ウエールズのCAT(Centre for Alternative technology通称自然エネルギー研究所)  
における環境教育プログラム」 . . . 3
- ◆環境学習特集  
腹話術で環境学習 . . . 4  
大人もびっくり楽しい自然観察会～つくし保育園 . . . 4  
おひさま発電所エコ会議 . . . 5  
スタッフ紹介 . . . 5
- ◆核のごみのこと . . . 6
- ◆認定NPO法人グリーンファンドでの研修を終えて  
哀悼 10月15日、関明美さんが旅立って… . . . 7  
編集後記 . . . 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド



田歌舎に

# おひさま発電所ができました!

美山おひさまプロジェクト2012～美山を自然エネルギーの里に～

たうたしや

## 田歌舎におひさま発電所ができました～点灯式 10月21日

田歌舎代表 藤原 誉

ご協力、ご賛同いただいた方々、本当にありがとうございました。

始まりはやはり3.11、及びふくしまの原発事故。なによりあのような大きな災害を目の当たりにして自然エネルギー推進の必要性を痛切に感じました。そして自分たちにも出来ることを、出来るだけ効果の大きなもので一歩を踏み出して行こう、そう考えたとき、すぐに太陽光発電が頭に浮かびました。まだまだ高額な設備に「どんっ」と払えるお金があるわけではありませんでしたので「ローンを組んででも」、という思いでいたところ、板倉先生にきょうとグリーンファンドの存在を教えてくださいました。多くの皆様を巻き込んで(笑)、きょうとグリーンファンドと一緒に完成までたどりつけたこと、本当に嬉しく思っています。

田歌舎は全国3700あると言われる自然学校のひとつでもあります。それぞれが特徴、個性を持っていますが、共通する想いは「良い世の中になって欲しい」という願いと、「次の社会を担う子供たちに大切なことを伝えたい」という熱意。そんな自然学校だからこそ3.11の後、自然エネルギー推進に向けた情報発信や実践、体験教育に取り組む団体が数多く生まれました。

きょうとグリーンファンドとの協働で始まった「美山おひさまプロジェクト」。この輪をさらに地域に広げたい。太陽光だけでなく、小水力・風力・間伐材利用など地域共同でエネルギーをまかなうコミュニティーエネルギーを実現できないかと、目指す将来が見えてきました。これからも「遊・食・住+エネルギーの自給」のモデルを目指して田歌舎は頑張っていくます。実践と発信の両面を大切にして持続可能な世の中作りに、微力ながらも携わっていきたく思います。

本当に大切な活動へ、皆様これからもご支援のほどよろしくお願ひします。

〒601-0702 京都府南丹市美山町田歌上五波 1 - 1  
TEL/FAX : 0771-77-0509 E-mail : field-songs@tautasya.com  
URL : http://www.tautasya.com

### 美山おひさまプロジェクト～2012 収支報告

2012年12月

収入の部		支出の部	
寄附金 (69件)	390,000	設備設置費	3,947,000
設置協力金 (寄附分)	230,000	印刷製本費	202,000
(借入分)	2,070,000	点灯式等運営費	33,000
京グリーン電力運営協議会助成金	336,000	通信運搬費	48,000
きょうとグリーンファンド「おひさま基金」	472,000	旅費交通費	15,000
田歌舎園負担金	1,400,000	事務費	423,000
		設置協力金事務管理費(5年分)	230,000
合計	4,898,000	合計	4,898,000

(1,000円以下原則四捨五入)



田歌(とおたと読むそうです)集落には、今既に雪が積もっているそうです。中山間地で、雪の多い地域では、太陽光発電に関心は薄かったし、積極的に設置しようという動きもありませんでした。しかし、原発事故で意識は変わりました。田歌の山向こうには大飯原発が稼働しています。「美山おひさまプロジェクト～田歌舎」は、美山町全体に自然エネルギーを広げる一環として進めることを意識しました。今後の美山町での展開に期待したいと思います。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

# 「ウエールズのCAT(Centre for Alternative technology 通称自然エネルギー研究所)における環境教育プログラム」

京都精華大学人文学部総合人文学科環境未来コース教授  
(きょうとグリーンファンド理事長) 板倉 豊

筆者は2012年4月から9月までの約半年間、イギリスはウエールズのCATで環境教育の多くのプログラムを体験する機会にめぐまれたので、その幾つかの例を報告します。CATは1974年にウエールズのスレート鉱山の廃鉱跡にエコロジーテーマパークとして生まれました。CATそのものは風力発電や太陽光発電、バイオマス発電によってよりオルタナティブなエネルギーを見だし、持続可能な生活をいかに工夫しておくかを哲学的命題とする基本理念をもって運営されています。食事からいっても施設内の食堂はベジタリアン食堂であり、敷地内でロジャーさんという名物おじいさんが丹誠込めて生産された物が主流です。その自然農園には施設内に「プークラブ」という自分の排泄物を農園に供給する楽しいクラブが存在する、もちろん突然おとずれた訪問者も参加できるのです。



写真1

写真1は地元の小学生が環境学習に参加し、CATの専属講師のJULIEさんにコンポストトイレの仕組みと「プークラブ」に君もはいりませんかと説明をうけているところです。子供達は自分の排泄物が農作物の肥料になることには感動するのですが、すこしはじらいもあるようです。かなり広い施設内の説明を受けたあと、講義棟でフードマイレージの講義とワークショップにも参加します。身近に売られているチョコレートボールを取りださせて、このお菓子を構成している包



写真2

み紙やチョコレート、ピーナツが、どこの国から運ばれてきたかをみんな議論し合います。チョコレートの原材料のカカオ豆はアフリカのガーナから来たとか、ピーナツはアフリカのどの国からきたでしょうかと議論百出します。食べ物のルーツがどこかを前にでて、たらしたひもに該当する写真をぶらさげていきます。1個のチョコレートボールは実はたくさんの国から運ばれた材料によってできていることを子供達は知る事ができます。(写真2)

今日はCATから少しはなれたボースという海岸で、自分たちが住んでいる場所の航空写真のパズル合わせをしました。写真3がそれで丈夫なゴムマ ットに印刷されたCAT周辺の航空写真をパズルの

ように地面にひろげて、ここが自分達が住んでいる村だ、ここが小学校だ、駅がある、川の流れるにそって地図を広げたり、河岸線の形をあわせて、自分達のすんでいるエリアの地図を完成させていきます。この作業を通じて地域のバイオソフィアの概念が自然に身に付いてきます。つまり村はどのような形の山や丘にかこまれているか、川はどのように支流をあつめて大きな川になって海にそそぐか、鉄道は、道路はどのように村々をつないでいるかを体得するのです。お昼休みにそれぞれがランチを食べたのですが、日本からもってきた貴重な海苔を使ったおむすびを子供達に試食をすすめたのですが、お米は野菜として彼らは平気で食べますが、まいてある味付け海苔を乾燥した状態でみせたところ、子供達には味付け海苔は紙にしか見えないようで、かなり抵抗があるようでした。一部の子供たちがおいしいと食べてくれましたが大多数は味付け海苔にはかぶりつきませんでした。Seaweeds(海の雑草)の印象があるのでしょうか。



写真3

CATでは毎日のように近隣の小中学校から見学があり、遠くはリバプールなどから大学生が研修にきています。子供達が触って、操作して体で体得出来るような展示器具が多くあるのが印象的です。

(「地球のこども」2012年12月号より)



## 腹話術で環境学習

腹話術師 はたけやま ともこ

「腹話術で環境学習」のきっかけは、おひさま発電所3号機が設置された清仁保育園での点灯式で、地球環境保護のために役立つおひさま発電所の必要性を子ども達にわかりやすく伝えるパフォーマンスを依頼されたことからでした。

それまで、環境問題についての認識が浅かったので、きょうとグリーンファンドからの資料や図書館・書店などで見つけた小学生向け環境関連本で、台本を構成。幼稚園教諭の経験から、乳幼児にメッセージを伝える時には視覚教材とコミカルさで興味を引くことが一番だと心得ていました。そこで、CO2排出がもたらす温室効果ガスの増加を知らせるためにパネルシアターを利用、そして私（ハタさん）と相棒たちとのボケとツッコミのおもしろさで興味を引き付け、子ども達の身近なことが、「地球のお熱」につながっていることに気づいてもらっています。

たとえば、食べ残しをするおさるのアイアイや、ティッシュペーパーを次々取り出して遊ぶドラゴン、歯磨きやシャワーの時に水の出っぱなしをするしんちゃん。これらの演技の中から、地球にやさしくするために自分たちが出来ること（節電・節水・ごみ減量・リサイクル・緑化・自然エネルギー活用など）が解ってもらえて、当たり前のこととして身につけてくれればうれしいです。さらに保護者の方々にも伝わっていくように、きょうとグリーンファンドとおひさま発電所設置園との連携に期待しながら、私は、「ストップ温暖化」をわかりやすく伝える方法を日々試行錯誤しています。

## 大人もびっくり楽しい自然観察会

～つくし保育園

つくし保育園の子どもたちと醍醐の山に出かけたのは、素晴らしい秋晴れの日。園を出て、住宅街を曲がり曲がり歩きます。

### ◆アメリカセンダングサの戦略とタデ酢、からすうり…

山に近いあぜ道では、“ひつつきむし”発見。トトロ先生（きょうとグリーンファンド理事長板倉豊、自然観察会の講師です。）が子どもの一人の服にくっつけると、あとはもうくっつけ合いで大騒ぎ。子どもたちは黄色の花がまだ咲いているものはくっつかないで、茶色になった種が良くくっつくことを感じたことでしょうか。動物にくっついて種を運んでもらう「アメリカセンダングサ」の戦略が見えました。同じ所で“アカマンマ”も発見。「アユの塩焼きにつけるタデ酢は、川原に生えているヤナギタデを重湯でといて使いまーす」とトトロ先生は、一緒に参加して下さった国際ソロプチミスト京都一わかばのみなさんに説明。へーえ！重湯で溶くとは知らなかったです。

「おーい、ええモノ見つけたでー」そこには、つるに実ったいだい色・黄色の目立つ実。まだ、緑色の実も2つ3つあります。「からすうりでーす。名前にカラスとかスズメとかついているのは、人より劣っているという意味があって、食べてもまずいです。」ちょっと引かかるネーミングですね。カラスやスズメになんだか悪いじゃないですか。

### ◆アメンボとは飴んぼ

釣り堀となっているため池で、水の表面を走るアメンボを発見。「ニオイを嗅ぎまーす」まず、アメンボを捕まえる必要があります。お手伝いの学生さんは網を振り回して一苦勞。それを見てトトロ先生は「あかんー」。先生はあつという間に、1匹2匹とget。こりゃ年季が違う。さて、摘まんだアメンボの臭いは？恐る恐る鼻を近づけると、なんと昔懐かし「生姜飴」のニオイ。アメンボの“アメ”は食べる飴なんです。今時の子どもたちは、「生姜飴」をご存じないらしい。あんまりピンと来ていないみたいでしたね。アメンボは、実は空を飛ぶそうです。「空飛ぶアメンボ」なんて、知りませんでした。

こんな調子で「自然観察会」は行き当たりばつりの楽しい時間。私も久しぶりに自分自身のリフレッシュに成功しました。

（きょうとグリーンファンド 大西 啓子）

# おひさま発電所 エコ会議

10月29日、第1回おひさま発電所エコ会議が京エコロジーセンターで開催されました。

そもそもこのエコ会議開催のきっかけは、2012年3月に開催した学習会「みんなでつくろう節電所」でした。その集まりの中で2002年におひさま発電所となったあけぼの保育園の報告が素晴らしく、同席された他園の園長先生から「うちも真似をしてみたい」「このような取り組みについて情報交換の場があったらいいのに・・・」というお声をいただいたのが始まりでした。

この会議にお集まりいただいたのは、おひさま発電所となった幼稚園や保育園の園長先生や環境担当の先生方です。おひさま発電所設置後の園の取り組みがどのように広がり、進化していったかについてはきょうとグリーンファンドとしてもとても気になっている点でした。日頃から設備を付けるだけではなく、環境学習を続けることによって園の子どもたち・保護者の意識や行動が知らず知らずのうちに変わっていくことを期待しているからです。そしてそれを現実的に進めていけるのは、毎日子どもたちと接している先生方だと私たちは考えています。それは、先生方や園のペースを大切に、あくまで自発的な気づきから生まれたものでなくてはなりません。それでこそ、園自体が発信する力を蓄え、地域の拠点としての存在となり得るのだと思うのです。

当日のご報告からは「節電見守り隊」や「エコレンジャー」といったプログラム、保護者の方々の手で設置された雨水タンクのエピソードなど、おひさま発電所設置から次への展開が園内だけでなく保護者をも巻き込んだ取り組みとしていきいきと語られました。私も、お父さんたちがオリジナル曲にあわせて、ノリにのって大活躍するエコレンジャーを見たくなりましたし、上のクラスの真似をして「節電見守り隊」ごっこをする小さいクラスの子どもたちに会いたくなくなってしまいました。

「子どもたちがそうなるのは、園の先生方が環境のことを一生懸命考えて保育をやっておられるからですね」と言ってくださった夢窓幼稚園の園長先生の言葉をお聞きして、私たちがおひさま発電所づくりで目指していることが実現していると、うれしさがこみ上げてきました。おひさま発電所となった保育園や幼稚園の先生方から生まれた「エコ会議」。

これからは、各園の環境学習担当先生方にお集まりいただき、より実質的な情報交換の場として生かしていただけるよう、きょうとグリーンファンドもお手伝いをしていきたいと考えています。 (きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

## スタッフ紹介

短い秋が去り、冬がやってきました。みなさま、いかがお過ごしですか。ぐりふぁんレターへの登場は、国税庁への二度目の認定NPO申請をお手伝いしたとき以来、2回目となります。前回のごく短期間のお手伝いでしたが、今年7月からはきょうとグリーンファンドの会計業務を担当しています。至らない点は多々あると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

ところで、冷たい風に首をすくめて師走の街を歩いていると、それこそ北風なんかはどこ吹く風、といった風情で衆院選の候補者たちが熱い戦いを繰り広げています。何万人、あるいは何十万人の有権者が投票するなかで、ひとりひとりの一票それ自体は、候補者の当落に直接影響を与えるものではなく、投票してもしなくても一緒というのは、ある意味正しいと思います。

けれども、個別に見れば無意味ともいえる小さな一票の集まりが、全体としての結果となるわけで、選挙権を獲得するために大変な苦勞をされた先人たちに思いを馳せながら、小さな一票を投じるべく、私も投票所に足を運びます。

新しい政権がどういう枠組みになるにせよ、少なくとも菩薩さんの名前がつけられたあのプラントだけは、すぐに廃炉にしてほしいところですが、さてどうなることやら。 (きょうとグリーンファンド 加川 裕介)

# 核のごみのこと

小坂 勝弥（理事の一人、今回は「核のごみキャンペーン」の立場から）

原発を動かすと「核のごみ」が発生するということはなんとなくご存知の方も多いかと思いますが、その問題の深刻さはあまり知られていません。そもそも日常的に目にするものがないものですから、そのことについて考えろといわれても無理な話かもしれません。ここでは、その核のごみについて少しお話をさせていただきます。

## □核のごみとは・・・

核のごみの正体を端的に言えば、ウランが核分裂によって姿を変えたもの、すなわち核分裂生成物ということになります。石や金属を細かくしたようなものだけれど、強烈な放射線を出していて、人が直接接触したり近づいたりできないものだといえれば少しイメージしやすくなるかもしれません。俗に「死の灰」と呼ばれています。

福島第1原発での事故というのは、この死の灰が原発の建物から漏れ出て広がったコトだということができます。たいへんな事故ですが、漏れ出た死の灰はほんの一部に過ぎません。チェルノブイリ事故ですら、内部の死の灰がすべて飛び散ったわけではないのです。ということは、その危険のポテンシャルはもっとも高いということです。

## □死の灰を管理する？

原子力利用の困難はこの死の灰を如何に管理するかということであり、完璧に管理することはできないと考えるのが反原発運動の根源的な認識であるといえるかもしれません。エネルギーがある程度に下がるまでプールの中で冷まし続け、その後は分厚い丈夫な金属の中に閉じ込めて、やはり温度管理をし続けなければなりません。前者の時間だけで数十年かかるといわれています。細心の注意を払ってバリア（水や金属）を維持している限り、放射能を閉じ込めておくことができます。しかし、ひとたび漏れ出してしまうと、人が近づくことはできません。このことは、何かあっても修理すればいいんだという一般常識は通用しないということです。福島事故の収束の難しさがそれを物語っています。

現在、日本の原発が生み出してしまった死の灰はどのくらいあるのでしょうか。広島原爆がまき散らした死の灰を基準にして、だいたいその80万倍に相当する量です。その大部分は使用済み核燃料の姿のままで、一部はガラス固化体という特別な形で保管されています。使用済み核燃料はウラン238とプルトニウム、そして死の灰の混ざったものが金属のさや管に詰まっているのですが、ガラス固化体は死の灰だけを取り出してガラスと混ぜてステンレスの容器の中で固まらせたものです。

## □処分計画はどうなっているの？

日本では、このガラス固化体の姿になった死の灰を地下深くに埋めて最終処分しようと計画しているのですが、その場所が決まっていません。それもそのはず、そんな危険なものを好んで受け入れてくれる地域がそう簡単には見つかるはずなどありません。

この「地層処分」の手続を定めた「特定放射性廃棄物の最終処分のための法律」が2000年6月に策定され、実施主体である認可法人「原子力発電環境整備機構（NUMO）」が同10月に設立されました。その後、公募という形で処分場の候補地を探していますが、現在までのところ名乗りを上げた自治体はありません。正確には、財政が厳しい過疎地の首長が多額の補助金に目をくらませて手を挙げかかるだけけれども、住民が反発して結局その首長がリコールされてしまうというケースが繰り返されています。これら一連の顛末を、知ってる人は知っているけれど、知らない人はホントにご存じないと思います。

## □私たちみんなの問題

この構図は基地問題に関する沖縄と本土との関係にとっても似ています。本土の人間には、その距離を越えて沖縄の痛みを知る努力が必要です。私はそう思っています。同じように、この核のごみ問題も過疎地を混乱させるだけの問題であってはなりません。実はたいへんな問題なのかきのです。

震災がれきの広域処理をめぐる、各地で猛烈な反対が広がりました。危険が目の前に迫るとき、イヤだという気持ちは素直なものだと思います。ただ、私たちはそれとは比べものにならない危険をどう分かち合うかという深刻な問題をこの先考えなければならぬのです。もちろんその前に、これ以上危険を増やさないために、一刻も早く原発を止める手続を進めなければなりません。

立ちすくむような思いがしますが、できることからやっていくしかないのです。きょうとグリーンファンドの試みは大きくて複雑なパズルのひとつのピースに過ぎないかもしれません。けれど、これらのピースがひとつひとつつながり合っていくのが大きな絵ができあがっていくのだと思っています。



# 認定NPO法人グリーンファンドでの研修を終えて

京都府山城広域振興局森づくり推進室 副主査 山路 和義

こんにちは、京都府山城広域振興局の山路和義です。先頃まで約1ヶ月に渡り、きょうとグリーンファンドでお世話になりました。これは、京都府の職員研修所が企画した OJT 研修の NPO 版で、府職員でも NPO さんの目線でものを見よ!というのがその趣旨です。

私は京都府に平成5年に採用され、多くの時間を治山事業という山崩れなどを復旧する仕事に就いてきました。この4月、宇治に異動後は、モデルフォレスト運動の担当になりました。この業務では、資金が激減して全く身動きが取れない感覚に陥っていましたが、NPOさんと付き合う度にまだまだやれるような気になりました。

そう思っていた矢先に職員研修所からNPO研修の話をいただき、前職の試験研究でバイオマス発電や小水力発電の資料を読みあさっていたため、迷わずグリファンさんを選びました。

都会生まれであるものの、郡部ののんびりした雰囲気ですっかり気に入っていたので、初めてグリファンの事務所に来たときは、大都会の高層ビル群に怯えました。怖い、田舎に帰りたい!そう思えました。しかし、驚きはまだまだ続きます。それは事務所に何やら外国語が飛び交っていたことです。この恐怖は、よその団体さんだと聞いて安心にかわりました。しかしながら、少ない人数で達成した太陽光パネル設置実績の多さや、顧客への環境教育などのソフトサービス。きっと何か秘密があるに違いありません。

事務局長と北川さん、そして私の初日は、ガイダンス、いやむしる尋問という形でなごやかにそして楽しく、つつがなくその日の夕暮れを迎える時間まで続けました。

事務局長から一言、「あ～良いのが引っ掛った」。そして北川さんの上品な「うふふ」という笑い。これだけで私がグリファンを理解するには十分でした。私はこれからこの研修に全てかけ、グリファンの3人のお姉様にお仕えさせていただけるのだと(深川さんの出番は以降の報告(予定)にとってあります)。

以上ですが、レポートすべきことは2点あります。

1. 女性が上司だと絶対服従だと言うこと。それが3人もいたら最初は厳しくつらいがだんだん気持ち良くなっていくということ。
2. やり手のNPOさんは十分機能している。が、府職が協力すればさらに仕事が面白くなるということ。

これからも気持ちよくなり協業したいと思いますので、どうかよろしくこき使って下さい。

## 哀 悼

10月15日、関明美さんが旅立って・・・

きょうとグリーンファンドは2008年5月全国で79番目に認定NPO法人として国税庁から認定を受けました。その3年ほど前から認定申請に向けて実に丹念に数字を拾い、整理をして資料をつくってくれたのが関明美さんでした。事務所には今でも彼女の几帳面な仕事ぶりが残されています。個人的には30年にもなるお付き合いでしたが、きょうとグリーンファンドの事務局で、机を並べて意外な内容の雑談をしていた日々が、なぜか今思い出されて仕方ありません。雑な私の事務仕事ぶりに「あーあ」という声が聞こえそう。私よりほんの少し年上だった彼女の旅立ちに、まだ呆然としている自分がいます。心からご冥福をお祈りいたします。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

## 編集後記

・今年も年末。田歌舎おひさま発電所完成!次のプロジェクトも見えてきました。固定価格買取制度で太陽光発電設置はバブリーな状況ですが、きょうとグリーンファンドは今まで通り、1ヶ所ずつ丁寧に、確実に進めていくこと、逆に覚悟が決まった感じです。(K.O)

・今年度も田歌舎におひさま発電所ができ、大変嬉しいです。多くの方から寄附を頂きましたが、今までのプロジェクトと違い、インターネットの寄附サイトからも寄附を頂き、広がりを感じました。ご協力頂いたみなさん、ありがとうございました。(Y.F)

・来年は巳年。年男ということで、来る年を充実した1年にしたいと思います。みなさまもどうぞよいお年を。(Y.K)

・「福島事故が起こってまず思ったことは、私たちは歴史上はじめて、未来の者たちから憎まれ、蔑まれる先祖になったのかもしれない、ということです。未来の者たちが私たちにたいして抱く思いは、敬いでも感謝でもなく、「なんということしてくれたのだ」という、恨みとも憎しみとも蔑みともつかない、やり場のないものではないでしょうか。」と作家片山恭一さん。この言葉を重く受け止めます。(S.K)

# 《 ぐりふあん日誌 》

- |   |   |
|---|---|
| 6/14 京都府職員の短期研修受入について、ヒアリング。                                  | 9/13 大宅保育園にて腹話術(マレーシアからの研修者あり)                      |
| 6/16 自然エネルギー学校・京都フォローアップ講座参加                                  | 9/18 京都府職員研修、山路和義さん来室                               |
| 6/18 京都グリーン購入ネットワーク総会   | 9/22 京都府職労連自治研修会で、GF活動報告                            |
| 6/19 陵ヶ岡保育園環境学習／腹話術<br>生活クラブ生協会報誌取材                           | 9/24 京グリーン電力運営協議会運営委員会                              |
| 6/21 会計引き継ぎ   | 9/26 伏見区長と面談  |
| 6/22 ヒアリング調査・陵ヶ岡保育園見学(有川さん、Faさん)<br>陵ヶ岡保育園スタッフ研修会「コンセントの向こう側」 | 9/27 御室児童館へ打ち合わせ                                    |
| 6/23 「原発ゼロをめざす城陽の会」アドバイザーとして参加                                | 9/29 「伏見をさかぬこざつぱらん④」参加:伏見区役所                        |
| 6/25 大宅保育園環境学習／腹話術  | 10/3 畠山智子さん来室、エコ会議について協議                            |
| 6/26 「認定寄附金にかかる報告書」提出、京都市行財政局                                 | 10/5 おひさまカフェ「シェーナウの想い」上映:喫茶うずら                      |
| 6/27 「日本興亜思いやりプログラム」助成申請<br>2011事業報告書提出(京都市、下京税務署)            | 10/9 GPN幹事会   |
| 6/29 「伏見区民活動支援事業」補助金申請  | 10/12 GPN「固定買取制度を…」参加:ウイングス京都                       |
| 6/30 「伏見をさかぬこざつぱらん①」参加  | 10/20 陵ヶ岡保育園自然観察会(牛尾山)                              |
| 7/2 つし保育園環境学習／腹話術   | 10/21 田舎舎点灯式  |
| 7/3 再生可能エネルギーWG定例会議   | 10/22 つし保育園自然観察会(醍醐山)                               |
| 7/4 第89回理事会   | 10/25 再生可能エネルギーWG                                   |
| 7/8 田舎舎おひさまライブ  | 10/26 自然学校エネルギーフォーラムin関西参加:<br>京都市中小企業会館            |
| 7/10 京グリーン電力運営協議会運営委員会  | 10/27 「伏見をさかぬこざつぱらん⑤」参加:伏見区役所                       |
| 7/13 京都グリーン購入ネットワーク幹事会  | 10/29 自然幼稚園自然観察会(京都精華大)                             |
| 7/18 ふくい森の子自然学校辻一憲さん来室  | 10/29 おひさま発電所「エコ会議」:京エコロジーセンター                      |
| 7/19 京都市より認定NPO法人についてヒアリング、3名来室                               | 10/30 再生可能エネルギー塾緊急企画参加:龍谷大学                         |
| 7/24 伏見区うずらの里児童館訪問、辻館長と面談                                     | 10/31 第91回理事会                                       |
| 7/25 大阪科学技術センターよりヒアリング、4名来室                                   | 11/1 アースガーデン協力金返済(第3回目)                             |
| 7/27 新日本婦人の会京都府本部見学会:あけぼの保育園                                  | 11/3 気候ネットワーク「市民がすすめる温暖化防止2012」<br>参加:同志社大学         |
| 7/28 「伏見をさかぬこざつぱらん②」参加  | 11/9 大宮保育園自然観察会(深泥池)                                |
| 7/31 亀岡市立病院訪問   | 11/10 妙林苑保育園自然観察会(京都御所)                             |
| 8/3 伏見区民活動支援事業補助金のプレゼンテーション                                   | 11/10 自然エネルギー学校京都事例報告:<br>京エコロジーセンター                |
| 8/8 日本興亜損保関西西業務部より現地調査  | 11/12 再生可能エネルギー塾①参加:龍谷大学                            |
| 8/22 田舎舎で、エコテックとともに打ち合わせ<br>立命館大大学院生、寄附についてヒアリング調査来室          | 11/17 京都消費者大会で事例報告:登録会館                             |
| 8/25 「伏見をさかぬこざつぱらん③」参加  | 11/19 滋賀県琵琶湖環境部温暖化対策室ヒアリングに来室<br>再生可能エネルギー塾②参加:龍谷大学 |
| 8/25 陵ヶ岡保育園夏まつりで省エネ相談所  | 11/21 相馬おひさまプロジェクト検討会                               |
| 8/28 小浜市職員、田辺市議員見学とヒアリング:向島保育園                                | 11/22 城陽市久世保育園へ打合せ                                  |
| 8/29 木村税理士事務所訪問、挨拶、引き継ぎ                                       | 11/24 「伏見をさかぬこざつぱらん⑤」参加:伏見区役所                       |
| 8/30 京都府職労連自治研修会について打ち合わせ                                     | 11/26 再生可能エネルギー塾③参加:龍谷大学                            |
| 8/31 市民出資型太陽光発電所について打ち合わせ                                     | 11/28 日本消費経済新聞取材:自然幼稚園<br>定款変更手続書類を法務局へ提出           |
| 8/31 第90回理事会  | 11/30 京グリーン電力運営協議会運営委員会<br>農業会議平尾さん、ヒアリングに来室        |
| 9/4 エコ会議の打ち合わせ:京エコロジーセンター                                     | 12/10 再生可能エネルギー塾④参加:龍谷大学                            |
| 9/6 CSRプラトホーム京都の駒阪さん、松岡さん来室                                   | 12/11 城陽市久世保育園へ調査、打合せ                               |
| 9/7 茨城県ひたちなか市政策課題研究研修班4名ヒアリング                                 | 12/15 再生可能エネルギー塾⑤⑥参加:龍谷大学                           |
| 9/8 府再資源化事業協同組合中谷延幸さん他、来室                                     |   |
| 9/12 御室児童館へ打ち合わせ  |   |

## □ 寄附のお願い

おひさま基金への寄附は随時お受けしています。

寄附の方法:ゆうちょ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817

加入者名:きょうとグリーンファンド

★2010年5月1日付で国税庁から認定NPO法人として再認定されました。

認定NPO法人への寄附は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数 77

正会員 46 賛助会員 27

法人会員 4 2012/12/15現在



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206

TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org

URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

